

影響され、低い移動の条件で吸収量が多くなる。

ethylene oxide が6個以上になると吸収は多いにもかかわらず、移動と作用力は低下するようである。このように、ethylene oxide の個数が少なく、paraquat の移動を助長するものは、水に難溶の特性をもっている。

水溶性の大なる amine oxide については、吸収と移動が平行するであろうか。この剤では鎖が長いものほど paraquat の吸収は大となっているが、移動は必ずしも平行して増大していない。

ethylene oxideの個数の多いLubrol N/13でも、0.1%と0.5%では低濃度の方が吸収量は少ないにも拘わらず、移動と作用力が大となることを見たのであるが(表1)、同剤の0.05%と0.5%を用いて、paraquatの濃度0.1~1.0%の間5段階として吸収と移動をしらべたのが表2である。ここでも低濃度で移動が大となっている。

ここで考えられるのは、作用力に関連する paraquatの移動は、吸収量の二次的支配によるものではなく、界面活性剤の直接影響によるものである。

表1. カモガヤにおける界面活性剤添加による paraquat の吸収・移動および作用力のちがい

界面活性剤	濃度 (%)	吸収量 (μg)	移動 (%)	作用力 (%)
Lissapol NX	0.1	466	10	72
	0.5	473	3	42
Lubrol N/13	0.1	530	3	55
	0.5	750	0.5	22

〔注〕作用力は影響なし-0、枯死-100とした比率である。
使用した paraquat の濃度は0.3%。

表2. 異なる濃度の paraquat に界面活性剤を添加した場合のカモガヤにおける吸収・移動のちがい

paraquat (%)	0.05% Lubrol N/13		0.5% Lubrol N/13	
	吸収量 (μg)	移動 (%)	吸収量 (μg)	移動 (%)
0.1	72	1	98	4
0.2	165	10	222	4
0.4	483	12	421	8
0.6	400	9	504	4
1.0	906	14	794	2

〔抄録者：日本植物調節剤研究協会 天辰克己〕

新 登 録 除 草 剤 一 覧

農林省農蚕園芸局植物防疫課

昭和52年12月31日～53年3月31日

種類名	商品名	有効成分の種類 及び含有量	剤型	適用 作物 (場所)	適用 雑草	使用時期	使用量 (/10a)	散布液量 (/10a)	使用方法	回数	登録会社
リニュロン 除草剤	ロックス	3-(3,4-ジクロルフェニル)- 1-メトキシ-1-メチル尿 素 1.5%	粒剤	桑	畑地一 年生雑 草	4月～10 月雑草の 生育期	6～8 kg		土壌全面 散布		三笠産業

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 物 (場所)	適 用 雑 草	使用時期	使用量 (／10a)	散布液量 (／10a)	使用方法	回数	登録会社
ACN 除草剤	キレダー	2-アミノ-3-クロル-1,4-ナフトキノン 25.0%	水和 剤	さつき、 つつじ (鉢植)	ゼニゴ ケ	ゼニゴケ の生育期	1m ² 当 り1l		散 布		兼商化学 工 業
トリフル ラリン除 草剤	トレファ ノサイド	α, α, α -トリ フルオール-2,6- ジニトロ-N, N-ジプロピル -パラートリイ ジン 44.5%	乳剤	キャベ ツ、 なたね	1年生 イネ科 及び広 葉雑草、 但しツ ユクサ・ カヤツ リグサ・ キク・ アブラ ナ科雑 草を除 く。	播種また は定植前	150～ 300cc	100l	土壌混和	1回	武田薬品 工 業
				はくさ い		播 種 前	150～ 300		土壌混和		
						定植前ま たは定植 後	200～ 300		土壌表面 散 布		
				レタス		定植前ま たは定植 後	200～ 300		土壌表面 散 布		
				トマト (移植)、 とうが らし		定 植 前	150～ 300		土壌混和		
				な す		定 植 前	150～ 300		土壌表面 散 布		
				すいか		生育期但 し収穫期 45日前ま で	150～ 300		畦間土壌 混 和		
				だいこ ん		播 種 前	150～ 200		土壌混和		
						播 種 後			土壌表面 散 布		
				にんじ ん		播 種 前	150～ 300		土壌混和		
						播 種 後	200～ 300		土壌表面 散 布		
				かんし ょ		挿 苗 後	200～ 300		土壌表面 散 布		
				さとい も		植 付 後 (マルチ前)	300～ 400				
				だいず		播 種 前	150～ 300		土壌混和		
						播 種 後	200～ 300		土壌表面 散 布		
				らっか せい		播 種 後	200～ 300		土壌表面 散 布		
				小 麦		播 種 後	200～ 400		土壌表面 散 布		

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤型	適 用 作 物 (場所)	適 用 雑 草	使用時期	使用量 (／10a)	散布液量 (／10a)	使用方法	回数	登録会社		
トリフル ラ リ ン 除 草 剤 (つづき)				たまね ぎ (本 畑)		定 植 前	150～ 300		土壌混和	2 回 以 内			
						こんに ゃく	植付後～ 培土後 (萌芽後)		200～ 300			土壌表面 散 布	
						茶	一番茶の 発芽前、 摘採後、 (雑草発 生前)		200～ 300			土壌混和	
						桑	本 畑		桑発芽前・ 春切後・ 夏切後 (雑草発 生前)			200～ 300	土壌混和
												300～ 400	土壌表面 散 布
						苗 床			播種前・ 伏込前			200～ 250	土壌混和
									播種後・ 伏込 (挿 木) 後			200～ 300	土壌表面 散 布
						き く			定 植 前			150～ 300	土壌混和
									定 植 後			200～ 400	土壌表面 散 布
						チュ－ リップ			植 付 前			150～ 300	土壌混和
									植付後～ 生 育 中			200～ 400	土壌表面 散 布
						森林苗 畑播種 床・ すぎ・ ひのかま・ あかつ・ らまつ の床替 床			播種後～ 生 育 中			300	土壌表面 散 布
									床替後～ 生 育 中				
						ゆ り			植付後～ 萌芽前			200～ 300	

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤型	適 用 作 物 (場所)	適 用 雑 草	使用時期	使用量 (／10a)	適用地帯	使用方法	適用 土壌	登録会社
MCPB・ シメトリ	バサグラ ンS・M	● 2－メチルー 4－クロルフ	粒剤	普通移 植水稻	ノビエ 等水田	移植後 7 ～12日	3～4 kg	関東以西 (九州、	湛水散布 〔茎葉兼〕	壤土	日本農薬 日本化薬

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適 用 作 物 (場所)	適 用 雑 草	使用時期	使用量 (/10a)	適用地帯	使用方法	適用 土壌	登録会社
ン・ベン タゾン除 草剤	粒剤	エノキシ酪酸 エチル 1.0% ● 2-メチルチ オ-4,6-ピ スエチルアミ ノ-S-トリ アジン 1.5% ● 3-イソプロ ピル-2,1,3 -ベンゾ-チ アジジノン (4)-2,2- ジオキシド 7.0%			1年生 雑草, マツバ イ, ウ リカワ,	(ノビエ 2葉期 まで)		南四国の 暖地を除 く)の栽 培地帯。	〔土 壤 処 理〕	) 埴 土 (減 水 深 2cm / 日 以 下)	三 共。
					ノビエ 等水田 1年生 雑草, マツバ イ, ホ タルイ, ウリカ ワ, ミ ズガヤ ツリ,	移植後 15~25日 (ノビエ 2葉期ま で)。 〔移植前 後の初 期除草 剤によ る土壌 処理と の体系 で使用〕	3kg	東北以西 (九州, 南四国の 暖地を除 く)の普 通期栽培 地帯。	湛水散布 〔茎葉兼 土 壤 処 理〕		
					稚苗移 植水稲	ノビエ 等水田 1年生 雑草, マツバ イ, ホ タルイ, ウリカ ワ, ミ ズガヤ ツリ,	移植後 15~25日 〔ノビエ 2葉期 まで, 但し寒 冷地 では移 植後 20~ 25日, 稲5葉 期以降 ノビエ 2葉期 まで。〕	3kg	東北以西 (九州, 南四国の 暖地を除 く)の普 通期栽培 地帯, 関 東・東北 の早期栽 培地帯。	湛水散布 〔茎葉兼 土 壤 処 理〕	
					ヘラオ モダカ,			寒 冷 地			

新 登 録 生 育 調 節 剤 一 覧

農林省農蚕園芸局植物防疫課

昭和52年12月1日~53年3月31日

種 類 名	商 品 名	有効成分の種類 及 び 含 有 量	剤 型	適用作物 (場所)	使用目的	希釈倍液	使用時期	使 用 量 (/10 a)	使用方法	登録会社
植物成長 調 整 剤	OMH-K	マレン酸ヒドラ ジッドカリウム	液剤	た ば こ	腋芽抑制	60倍	芯止期以 降		散 布	大塚化学 薬 品